

平成20年度 学生生活調査結果の概要

まえがき

この「学生生活調査」は、学生の標準的な学生生活状況を把握し、学生生活支援事業の改善を図るための基礎資料を得ることを目的として、平成14年度まで文部科学省において隔年に実施されてきましたが、平成16年4月に独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）が設立されたことに伴い、文部科学省から日本学生支援機構に業務が移管されました。

このたび、平成20年度の調査結果をとりまとめましたので、主に大学昼間部及び大学院を中心に前回調査（平成18年度）との比較を行いながら、その調査の概要を説明します。

今回の調査は、前回調査と同様に大学学部、短期大学本科及び大学院の学生（休学者及び外国人学生を除く。）を調査対象とし、各種の条件下における学生の標準的な学生生活費とこれを支える家庭の経済状況、学生のアルバイト従事状況など学生生活状況を把握することを主眼として、全国2,948,862人中から80,958人を抽出し、平成20年11月現在で実施したものです。

調査の方法としては、大学・短期大学の別、昼間部・夜間部の別、大学院修士課程・博士課程・専門職学位課程の別、設置者（国公私立）の別に従ってそれぞれ抽出率を定め、サンプル数を算出し、在籍学生数に比例して各大学、短期大学にサンプル数を割り当てて調査を依頼しました。有効回答数は41,222人（回収率は50.9%）で、本文に紹介する資料に掲げる数値は、この標本調査の結果を基礎として、全国の調査対象学生総数についての数値を推定した結果となっています。

学生生活に伴う問題は広範かつ複雑であって、この調査で取り上げたことに尽きるものではありませんが、この調査結果が学生生活に関心を寄せられる方々の参考になれば幸いです。

終わりに、平成20年度調査の実施に際し、多大なご協力をいただいた全国各大学及び各短期大学の皆様に深く感謝申し上げます。

独立行政法人 日本学生支援機構
奨学事業部 奨学事業統括課

< 学生生活費等について >

大学教育を受けるのに年間どれだけの経費がかかっているかを知るため、学生生活を送るために不可欠な要素としての学費と生活費を取り上げ、これを学生生活費としてその実態をみることにする。

ここに取り上げた「学費」とは、授業料、その他の学校納付金（入学金や入学時にのみ支払う施設設備費などの一時的納付金を除く。）、図書、学用品等に要する修学費、課外活動費及び通学費をいい、「生活費」とは、食費、住居・光熱費、保健衛生費、娯楽・嗜好費及びその他の日常費をいう。（用語の定義、年間収入の取り方等については、後掲の《資料2》調査票の様式及び調査項目の説明を参照。）

また、この調査における大学院の「修士課程」、「博士課程」は次の区分によるものである。「修士課程」とは、(1) 修士課程、(2) 博士課程前期、(3) 一貫制博士課程の前期2年とする。「博士課程」とは、(1) 医・歯・獣医学系博士課程、(2) 博士課程後期、(3) 一貫制博士課程の後期3年とする。なお、「専門職学位課程」は法科大学院を含む。

学生生活費は、大学・短期大学別、昼間部・夜間部別、大学院修士課程・博士課程・専門職学位課程別、設置者別あるいは居住形態別等学生の置かれている条件の違いによって大きく影響されるので、以下、いくつかの基本的な条件について集計分析を行っているが、解説は主として大学昼間部及び大学院について行うことにする。

本調査結果における留意事項

1.四捨五入した数を使用している表では、内訳の数の合計が、合計欄の数と一致しない場合がある。

2.平成14年度までは文部科学省が調査を実施した。

3.大学院専門職学位課程については、平成18年度より調査対象とした。

4.表中の記号は次のように使う。

「-」 計数が無い場合

「0.0」 計数が単位未満の場合

「…」 計数の出現が有り得ない場合または調査対象とならなかった場合

1. 学生生活費

(1) 年間学生生活費（A表）

年間の学生生活費は、次のようになっている。

①大学昼間部等

大学昼間部は約186万円、短期大学昼間部は約158万円となっている。これを平成18年度調査と比較すると、大学昼間部で1.9%減、短期大学昼間部で3.7%減となっている。

なお、夜間部の学生生活費は、昼間部に比べ大学で約45万円、短期大学で約50万円低く、また、平成18年度調査と比較すると、大学で4.8%減、短期大学で10.9%減となっている。

②大学院

修士課程は約174万円, 博士課程は約205万円, 専門職学位課程は約222万円で, これを平成18年度調査と比較すると, 修士課程で0.4%減, 博士課程で1.4%減, 専門職学位課程で3.6%減となっている。

A表 年間学生生活費

(単位:円)

区 分	大学		短期大学		大学院			
	昼間部	夜間部	昼間部	夜間部	修士課程	博士課程	専門職学位課程	
学 費	授業料	840,700	512,800	707,500	357,300	598,700	485,400	958,700
	その他の学校納付金	186,000	71,800	243,600	119,300	55,200	25,600	91,400
	修学費	45,100	38,400	53,000	28,700	56,000	126,400	129,900
	課外活動費	40,200	28,100	18,100	10,700	32,300	62,200	21,600
	通学費	71,000	75,900	80,600	60,600	67,400	84,900	76,200
計	1,183,000	727,000	1,102,800	576,600	809,600	784,500	1,277,800	
生 活 費	食費	176,600	177,700	108,300	121,400	272,000	376,500	290,200
	住居・光熱費	207,900	168,200	115,000	107,300	330,900	434,400	301,600
	保健衛生費	40,900	43,800	40,200	40,600	45,100	65,300	53,400
	娯楽嗜好費	138,200	165,500	99,100	103,000	159,400	206,600	151,100
	その他の日常費	112,700	130,000	114,600	127,300	125,100	185,800	148,400
計	676,300	685,200	477,200	499,600	932,500	1,268,600	944,700	
合 計	(△1.9)	(△4.8)	(△3.7)	(△10.9)	(△0.4)	(△1.4)	(△3.6)	
	1,859,300	1,412,200	1,580,000	1,076,200	1,742,100	2,053,100	2,222,500	
参 考	平成18年度	1,895,100	1,483,000	1,640,200	1,208,300	1,749,800	2,081,400	2,306,000
	平成16年度	1,940,800	1,511,100	1,664,700	1,379,600	1,772,600	2,105,400	...
	平成14年度	2,017,700	1,553,900	1,785,100	1,462,800	1,825,400	2,156,900	...

(注) () は, 平成18年度調査からの伸び率である。

(2) 学生生活費の推移 (B表, 第1図)

①大学昼間部

学生生活費の前回調査からの伸び率は, 平成18年度調査においては2.4%減となったが, 今回調査においても引き続き1.9%減となっている。これを学費と生活費とに分けて, その伸び率をみると, 学費は1.0%増, 生活費は6.6%減であった。

②大学院

前回調査からの伸び率は, 修士課程で0.4%減, 博士課程で1.4%減, 専門職学位課程で3.6%減となっている。学費と生活費に分けてその伸び率をみると, 学費は修士課程, 博士課程, 専門職学位課程それぞれ0.3%減, 2.4%減, 3.4%減, 生活費は修士課程, 博士課程, 専門職学位課程それぞれ0.6%減, 0.7%減, 4.0%減であった。

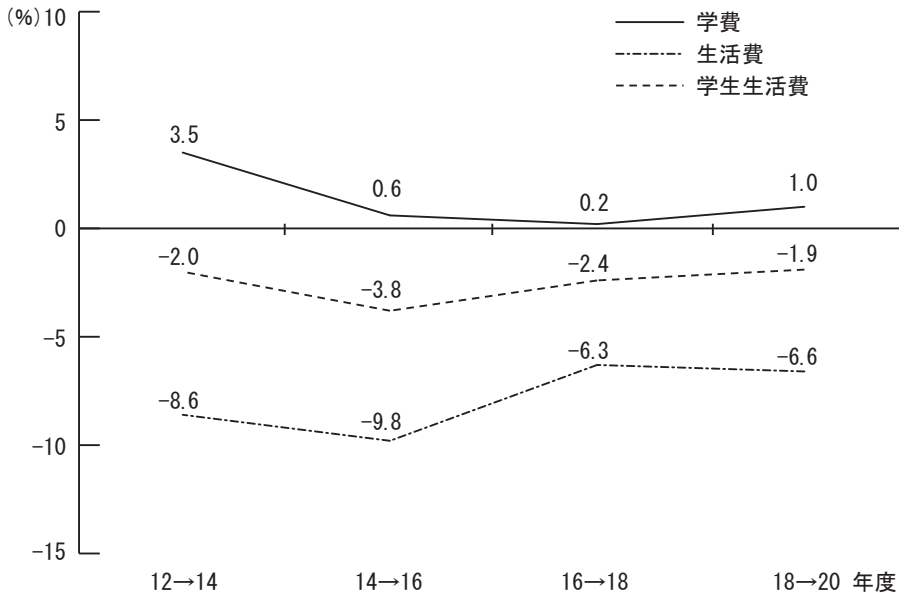
B表 学生生活費の推移

(単位:円)

区分		年度	平成14年度	平成16年度	平成18年度	平成20年度
大 学 部	学 費	授業料及びその他の学校納付金	(3.2)	(0.9)	(1.1)	(1.8)
		988,800	997,300	1,008,400	1,026,700	
		(5.8)	(△0.7)	(△4.8)	(△4.1)	
	間 生 活 費	修学費, 課外活動費, 通学費	172,400	171,200	162,900	156,300
		計	(3.5)	(0.6)	(0.2)	(1.0)
		1,161,200	1,168,500	1,171,300	1,183,000	
	生 活 費	食費, 住居・光熱費	(△10.5)	(△7.2)	(△5.1)	(△9.7)
		484,000	449,000	426,000	384,500	
		(△6.0)	(△13.2)	(△7.9)	(△2.0)	
	日 常 費 (保 健 衛 生 費, 娛 楽 し 好 費 等)	372,500	323,300	297,800	291,800	
計		(△8.6)	(△9.8)	(△6.3)	(△6.6)	
856,500		772,300	723,800	676,300		
合 計		(△2.0)	(△3.8)	(△2.4)	(△1.9)	
		2,017,700	1,940,800	1,895,100	1,859,300	
大 学 院	学 費	授業料及びその他の学校納付金	(4.3)	(3.9)	(2.4)	(0.8)
		609,100	632,900	648,400	653,900	
		(2.9)	(△5.8)	(0.4)	(△4.7)	
	間 生 活 費	修学費, 課外活動費, 通学費	172,700	162,700	163,300	155,700
		計	(3.9)	(1.8)	(2.0)	(△0.3)
		781,800	795,600	811,700	809,600	
	生 活 費	食費, 住居・光熱費	(△10.2)	(△2.3)	(△4.1)	(△1.9)
		656,000	641,000	614,600	602,900	
		(△6.8)	(△13.3)	(△3.7)	(1.9)	
	日 常 費 (保 健 衛 生 費, 娛 楽 し 好 費 等)	387,600	336,000	323,500	329,600	
計		(△8.9)	(△6.4)	(△4.0)	(△0.6)	
1,043,600		977,000	938,100	932,500		
合 計		(△3.8)	(△2.9)	(△1.3)	(△0.4)	
		1,825,400	1,772,600	1,749,800	1,742,100	
大 学 院	学 費	授業料及びその他の学校納付金	(7.4)	(7.4)	(0.6)	(△3.6)
		490,700	527,000	530,100	511,000	
		(△2.2)	(△8.7)	(8.2)	(△0.2)	
	間 生 活 費	修学費, 課外活動費, 通学費	277,500	253,400	274,100	273,500
		計	(3.7)	(1.6)	(3.0)	(△2.4)
		768,200	780,400	804,200	784,500	
	生 活 費	食費, 住居・光熱費	(△6.8)	(△3.3)	(△5.5)	(△0.9)
		894,800	865,600	818,400	810,900	
		(△9.7)	(△7.0)	(△0.1)	(△0.2)	
	日 常 費 (保 健 衛 生 費, 娛 楽 し 好 費 等)	493,900	459,400	458,800	457,700	
計		(△7.9)	(△4.6)	(△3.6)	(△0.7)	
1,388,700		1,325,000	1,277,200	1,268,600		
合 計		(△4.1)	(△2.4)	(△1.1)	(△1.4)	
		2,156,900	2,105,400	2,081,400	2,053,100	
専 門 職 学 位 課 程	学 費	授業料及びその他の学校納付金	1,085,700	1,050,100
		修学費, 課外活動費, 通学費	236,700	227,700
		計	1,322,400	1,277,800
	生 活 費	食費, 住居・光熱費	621,300	591,800
		日常費 (保健衛生費, 娯楽し好費等)	362,300	352,900
		計	983,600	944,700
	合 計		2,306,000	2,222,500
	家計消費支出指数 (年度)		(△4.0)	(△0.4)	(△2.5)	(△0.4)
			96.0	95.6	93.2	92.8
	消費者物価指数 (年度)		(△1.6)	(△0.3)	(0.0)	(1.5)
		98.4	98.1	98.1	99.6	

- (注) 1. () は、それぞれ前回調査からの伸び率である。
2. 家計消費支出指数及び消費者物価指数について、平成12年度の指数を100とする。
3. 家計消費支出指数及び消費者物価指数は、総務省家計調査の結果等より算出。

第1図 学生生活費の伸び率の推移（大学昼間部）



(3) 設置者別の学生生活費（C表）

学生生活費を設置者別で比較すると、次のようになっている。

①大学昼間部等

学費と生活費を合わせた学生生活費は、大学昼間部で国立より私立が約51万円高くなっている。これは学費の差によるところが大きい。

短期大学昼間部についても、学費の差によって公立より私立が高くなっている。

また、夜間部の場合も昼間部と同様に私立が高くなっているが、学費は昼間部に比べ全体的に低くなっている。

②大学院

学費と生活費を合わせた学生生活費は、私立が国立より修士課程で約25万円、博士課程で約21万円、専門職学位課程で約49万円高くなっている。

学費は私立が国立より修士課程で約45万円、博士課程で約28万円、専門職学位課程で約61万円高くなっている。生活費は国立が私立に比べ修士課程で約20万円、博士課程で7万円、専門職学位課程で約12万円高くなっている。

C表 設置者別の学生生活費

(単位：円)

区 分			学 費			生 活 費			合 計
			授業料, 其 他の学校 納付金	修学費, 課 外活動費, 通学費	小 計	食費, 住居 ・光熱費	保健衛生費, 娯楽し好費, その他の日 常費	小 計	
大 学	昼 間 部	国立	510.600	134.200	644.800	532.800	288.800	821.600	1,466.400
		公立	528.900	143.400	672.300	455.900	289.300	745.200	1,417.500
		私立	1,175.800	162.200	1,338.000	345.900	292.700	638.600	1,976.600
		平均	1,026.700	156.300	1,183.000	384.500	291.800	676.300	1,859.300
	夜 間 部	国立	251.600	126.500	378.100	468.500	337.800	806.300	1,184.400
		公立	288.300	169.800	458.100	376.200	361.900	738.100	1,196.200
		私立	690.900	143.600	834.500	313.900	337.500	651.400	1,485.900
		平均	584.600	142.400	727.000	345.900	339.300	685.200	1,412.200
短 期 大 学	昼 間 部	国立
		公立	411.600	123.600	535.200	318.700	259.400	578.100	1,113.300
		私立	984.700	153.600	1,138.300	217.300	253.600	470.900	1,609.200
		平均	951.100	151.700	1,102.800	223.300	253.900	477.200	1,580.000
	夜 間 部	国立
		公立	174.000	86.000	260.000	220.800	273.200	494.000	754.000
		私立	570.100	104.300	674.400	231.000	270.200	501.200	1,175.600
		平均	476.600	100.000	576.600	228.700	270.900	499.600	1,076.200
大 学 院	修 士 課 程	国立	507.800	135.600	643.400	680.200	330.600	1,010.800	1,654.200
		公立	515.700	181.000	696.700	543.300	346.400	889.700	1,586.400
		私立	907.900	183.900	1,091.800	488.400	325.500	813.900	1,905.700
		平均	653.900	155.700	809.600	602.900	329.600	932.500	1,742.100
	博 士 課 程	国立	455.500	256.900	712.400	848.000	442.000	1,290.000	2,002.400
		公立	492.100	285.100	777.200	712.000	498.600	1,210.600	1,987.800
		私立	671.100	317.800	988.900	727.300	492.700	1,220.000	2,208.700
		平均	511.000	273.500	784.500	810.900	457.700	1,268.600	2,053.100
	専 門 職 学 位 課 程	国立	677.300	205.000	882.300	693.500	334.700	1,028.200	1,910.500
公立		619.900	217.300	837.200	466.400	353.700	820.100	1,657.300	
私立		1,251.200	239.300	1,490.500	547.500	361.900	909.400	2,399.900	
平均		1,050.100	227.700	1,277.800	591.800	352.900	944.700	2,222.500	

(4) 居住形態別の学生数の割合 (D表)

居住形態別学生数の割合は、大学昼間部の平均で自宅54.1%、学寮4.8%、下宿・アパート・その他(以下、「下宿等」という)41.1%である。

なお、自宅通学者は、私立では59.7%を占めているのに対し、国立、公立ではそれぞれ33.1%、42.4%と低くなっている。

短期大学昼間部の平均では、自宅70.7%、学寮6.9%、下宿等22.5%と自宅が最も高く、その割合は大学昼間部と比べても高くなっている。

また、大学院については、修士課程の平均で自宅41.6%、学寮3.3%、下宿等55.1%、博士課程の平均で自宅43.4%、学寮2.5%、下宿等54.0%、専門職学位課程の平均で自宅55.0%、学寮2.2%、下宿等42.9%となっており、大学、短期大学、大学院専門職学位課程では自宅が最も高いが、大学院修士課程、博士課

程では下宿等が最も高くなっている。

D表 居住形態別学生数の割合

(単位：%)

区 分			自宅	学寮	下宿等	計
大 学	昼 間 部	国 立	33.1	6.0	60.9	100.0
		公 立	42.4	2.5	55.1	100.0
		私 立	59.7	4.6	35.7	100.0
		平 均	54.1	4.8	41.1	100.0
	夜 間 部		59.7	4.4	35.9	100.0
短期 大学	昼 間 部		70.7	6.9	22.5	100.0
	夜 間 部		68.0	1.1	30.9	100.0
大 学 院	修 士 課 程	国 立	31.5	4.5	64.0	100.0
		公 立	49.2	2.4	48.3	100.0
		私 立	56.1	1.5	42.4	100.0
		平 均	41.6	3.3	55.1	100.0
	博 士 課 程	国 立	38.7	3.1	58.2	100.0
		公 立	53.7	1.7	44.6	100.0
		私 立	54.3	1.1	44.6	100.0
		平 均	43.4	2.5	54.0	100.0
	専 門 職 位 課 程	国 立	41.9	3.1	55.1	100.0
		公 立	64.6	-	35.4	100.0
		私 立	61.0	1.8	37.2	100.0
		平 均	55.0	2.2	42.9	100.0

(5) 居住形態別の学生生活費 (E表, 第2図)

①大学昼間部

居住形態別の学生生活費は、国・公・私立を通じて下宿等の通学者が最も高く、自宅通学者の学生生活費の1.4～1.6倍となり、その差は、国立約66万円、公立約60万円、私立約65万円となっている。学寮通学者の場合は、国・公・私立とも自宅通学者と下宿等通学者の中間にあつて、自宅通学者の1.1～1.2倍となり、その差は、国立約14万円、公立約20万円、私立約30万円となっている。

E表 居住形態別学生生活費

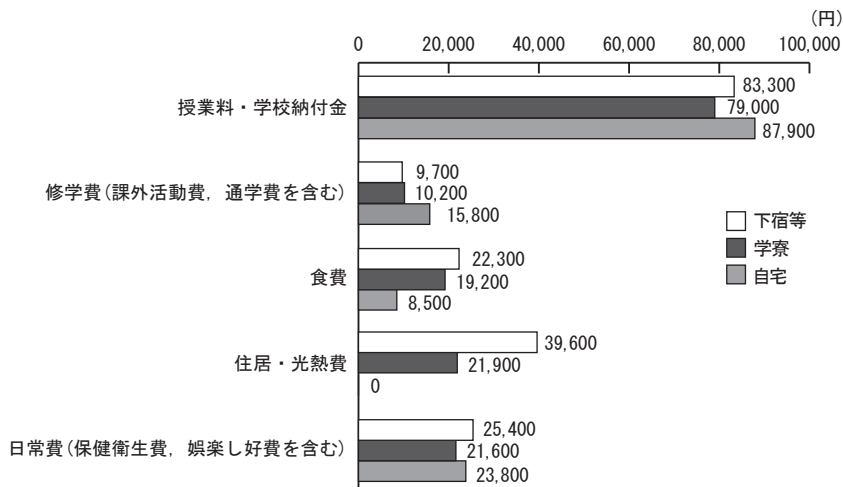
(単位：円)

区 分			自宅	学寮	下宿等
大 学	昼 間 部	国 立	1,056,400 (100)	1,193,900 (113)	1,716,200 (162)
		公 立	1,080,900 (102)	1,279,400 (121)	1,682,900 (159)
		私 立	1,728,900 (164)	2,030,200 (192)	2,383,300 (226)
		平 均	1,631,900	1,822,400	2,163,100
大 学 院	修 士 課 程	国 立	1,170,100 (100)	1,448,400 (124)	1,881,400 (161)
		公 立	1,217,200 (104)	1,381,000 (118)	1,910,400 (163)
		私 立	1,581,900 (135)	1,857,300 (159)	2,310,300 (197)
		平 均	1,381,600	1,515,300	2,002,300
	博 士 課 程	国 立	1,531,500 (100)	1,614,500 (105)	2,225,400 (145)
		公 立	1,594,100 (104)	1,373,000 (90)	2,305,700 (151)
		私 立	1,763,100 (115)	2,103,400 (137)	2,625,300 (171)
		平 均	1,615,900	1,652,600	2,310,200
	専 門 職 位 課 程	国 立	1,478,900 (100)	1,330,800 (90)	2,191,300 (148)
		公 立	1,446,700 (98)	— —	1,972,700 (133)
		私 立	2,097,000 (142)	2,145,400 (145)	2,837,200 (192)
		平 均	1,935,900	1,790,400	2,549,200

(注) () は、国立の自宅を基準 (100) とした場合の指数である。

自宅通学者と学寮、下宿等通学者の学生生活費の差は、主として食費及び住居・光熱費の差によるものであり、これを大学昼間部の平均を例にとって月額で示したのが第2図である。

第2図 居住形態別学生生活費の支出状況 (月額) [大学昼間部平均]



(注) 自宅生は住居・光熱費のデータなし。

食費及び住居・光熱費について、下宿等通学者と学寮通学者を比較すると、下宿等通学者の方が、食費で月額約3千円、住居・光熱費で月額約1万8千円多くなっている。

修学費（課外活動費、通学費を含む。）については、自宅通学者が最も高くなっているが、これは自宅通学者の通学費が最も高いことによるものである。

②大学院

修士課程では、下宿等通学者の学生生活費は、自宅通学者の1.5～1.6倍で、その差は、約69～73万円となっている。

また、博士課程では、下宿等通学者の学生生活費は自宅通学者の1.4～1.5倍で、その差は、約69～86万円となっている。

専門職学位課程では、下宿等通学者の学生生活費は、自宅通学者の1.4～1.5倍で、その差は、約53～74万円となっている。

(6) 地域別・居住形態別学生生活費（F表、第3図）

大学昼間部について学生生活費を地域別に比較すると、国・公・私立全体の平均では、東京圏（「東京圏」とは、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県をいう）が最も高く、次いで京阪神（「京阪神」とは、京都府・大阪府・兵庫県をいう）、その他の地域の順となっている。設置者別・居住形態別にみると、最も高いのは私立の東京圏の下宿等通学者で約253万円となっている。

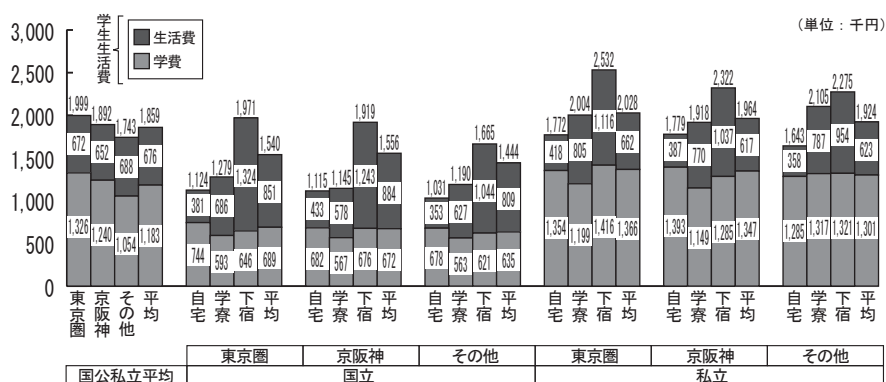
F表 地域別・居住形態別学生生活費（大学昼間部）

（単位：円）

区 分	東京圏			京阪神			その他			全国平均			
	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計	
国公立平均	1,326,100	672,400	1,998,500	1,240,100	652,000	1,892,100	1,054,200	688,400	1,742,600	1,183,000	676,300	1,859,300	
国 立	自宅	743,600	380,800	1,124,400	682,400	432,600	1,115,000	678,400	352,700	1,031,100	688,800	367,600	1,056,400
	学寮	592,500	686,200	1,278,700	567,000	577,900	1,144,900	563,300	627,100	1,190,400	566,300	627,600	1,193,900
	下宿	646,300	1,324,200	1,970,500	675,900	1,243,100	1,919,000	620,900	1,044,200	1,665,100	628,400	1,087,800	1,716,200
	平均	689,100	850,900	1,540,000	672,400	883,800	1,556,200	634,700	808,800	1,443,500	644,800	821,600	1,466,400
公 立	自宅	730,600	395,500	1,126,100	676,900	404,100	1,081,000	733,300	343,400	1,076,700	720,700	360,200	1,080,900
	学寮	—	—	—	579,100	902,300	1,481,400	612,000	636,000	1,248,000	607,400	672,000	1,279,400
	下宿	661,100	1,161,900	1,823,000	618,600	1,145,000	1,763,600	640,400	1,026,600	1,667,000	638,100	1,044,800	1,682,900
	平均	708,300	642,400	1,350,700	650,500	724,000	1,374,500	675,300	754,700	1,430,000	672,300	745,200	1,417,500
私 立	自宅	1,353,700	418,400	1,772,100	1,392,600	386,500	1,779,100	1,284,500	358,200	1,642,700	1,337,600	391,300	1,728,900
	学寮	1,198,600	805,100	2,003,700	1,148,700	769,500	1,918,200	1,317,400	787,200	2,104,600	1,238,000	792,200	2,030,200
	下宿	1,416,200	1,116,200	2,532,400	1,284,500	1,037,300	2,321,800	1,321,100	953,900	2,275,000	1,351,600	1,031,700	2,383,300
	平均	1,366,300	662,100	2,028,400	1,347,300	616,700	1,964,000	1,301,000	622,600	1,923,600	1,338,000	638,600	1,976,600

（注）「東京圏」とは、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県をいう。
「京阪神」とは、京都府・大阪府・兵庫県をいう。

第3図 地域別・居住形態別学生生活費（大学昼間部）



(7) 男女別・居住形態別学生生活費（G表）

大学昼間部について居住形態別の学生生活費を男女別にみると、国立では、女子が男子を自宅通学者で約1万7千円（男子約105万円，女子約106万6千円）、下宿等通学者で約5万2千円（男子約169万7千円，女子約175万円）上回っている。

また、私立では、女子が男子を自宅通学者で約4万1千円（男子約170万9千円，女子約174万9千円）、下宿等通学者で5万2千円（男子約236万1千円，女子約241万3千円）上回っている。

G表 男女別・居住形態別学生生活費（大学昼間部）

(単位：円)

区分	学 費			生 活 費			合 計		
	授業料 学校納付金	修学費 課外活動費 通学費	小 計	食費 住居・ 光熱費	保健衛生費 娯楽し好費 その他の日常費	小 計			
国立	男	自宅	515,400	168,800	684,200	118,500	246,800	365,300	1,049,500
		学寮	479,200	110,100	589,300	374,400	225,200	599,600	1,188,900
		下宿等	513,100	110,800	623,900	778,800	294,700	1,073,500	1,697,400
	女	自宅	506,400	188,900	695,300	92,700	278,300	371,000	1,066,300
		学寮	416,700	100,000	516,700	406,900	280,300	687,200	1,203,900
		下宿等	518,500	118,000	636,500	778,700	334,300	1,113,000	1,749,500
私立	男	自宅	1,143,400	185,700	1,329,100	107,800	271,600	379,400	1,708,500
		学寮	987,100	133,200	1,120,300	484,600	219,000	703,600	1,823,900
		下宿等	1,235,800	120,300	1,356,100	720,000	284,600	1,004,600	2,360,700
	女	自宅	1,149,200	197,000	1,346,200	96,600	306,600	403,200	1,749,400
		学寮	1,263,700	122,500	1,386,200	580,800	323,000	903,800	2,290,000
		下宿等	1,230,500	115,200	1,345,700	741,500	325,500	1,067,000	2,412,700

(8) 学年別の学生生活費（H表）

学費は、学年間で大きな差は見られないが、生活費は逆に高学年になるにつれて高くなる傾向にある。なお、大学昼間部の第5、第6学年については医・歯学部、獣医学部の学生であり、第4学年に比較して学費、生活費とも高くなっている。

H表 学年別の学生生活費

(単位：円)

区 分			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
大 学	昼 間 部	学 費	1,169,200	1,171,700	1,186,400	1,171,000	1,986,000	2,571,200
		生活費	554,100	669,600	710,700	753,500	1,216,000	1,259,500
		計	1,723,300	1,841,300	1,897,100	1,924,500	3,202,000	3,830,700
短 期 大 学	昼 間 部	学 費	1,100,800	1,107,900	1,038,800	…	…	…
		生活費	430,900	514,300	578,100	…	…	…
		計	1,531,700	1,622,200	1,616,900	…	…	…
大 学 院	修 士 課 程	学 費	817,300	801,300	…	…	…	…
		生活費	908,700	958,400	…	…	…	…
		計	1,726,000	1,759,700	…	…	…	…
	博 士 課 程	学 費	775,900	799,300	767,500	855,300	…	…
		生活費	1,220,600	1,268,200	1,210,500	2,035,400	…	…
		計	1,996,500	2,067,500	1,978,000	2,890,700	…	…
	専 門 職 学 位 課 程	学 費	1,260,800	1,268,000	1,324,100	…	…	…
		生活費	885,900	957,200	1,023,200	…	…	…
		計	2,146,700	2,225,200	2,347,300	…	…	…

2. 学生の収入の状況（I表、第4図）

学生生活費は、家庭からの給付、奨学金及びアルバイト収入等で賄われているが、上級課程へ進むほど、家庭からの給付額が少なくなるなど収入構成に差異がある。その状況はI表、第4図のとおりである。

①大学昼間部等

大学昼間部の家庭からの給付額は、国・公・私立の平均で約145万円（月額約12万1千円）であり、収入総額（約220万円）に占める家庭からの給付額の割合は65.9%となり、前回調査に比べ2.4ポイント下回っている。家庭からの給付額を設置者別にみると、私立が国立に比べ約47万円上回っている。男女別にみると、女子が男子を約5万円上回っている。

なお、アルバイトによる収入は平均約36万円で、収入総額に占める割合は16.3%と、前回調査時に比べ0.9ポイント上回っている。

短期大学昼間部については、家庭からの給付額は約121万円（月額約10万1千円）で、収入総額（約191万円）に占める割合は63.3%となっている。

②大学院

修士課程の家庭からの給付額は、国・公・私立の平均で約103万円（月額約8万6千円）であり、収入総額（約211万円）に占める家庭からの給付額の割合は49.0%となっている。

また、博士課程の家庭からの給付額は、国・公・私立の平均で約46万円（月額約3万8千円）であり、収入総額（約291万円）に占める割合は15.8%と低い。

なお、奨学金及びアルバイト収入の占める割合は、家庭からの給付額が低いこともあって、58.0%と高くなっている。

専門職学位課程の家庭からの給付額は、国・公・私立の平均で約115万円（月額約9万6千円）であり、収入総額（約278万円）に占める家庭からの給付額の割合は41.4%となっている。

I表 収入及びその構成割合

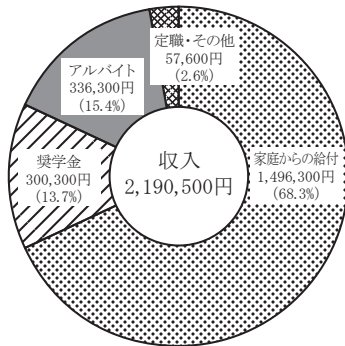
(単位：円)

区 分		家庭からの給付	奨 学 金	アルバイト	定職・その他	収入総額
大 学 昼 間 部	国 立	(62.9)	(17.3)	(17.4)	(2.4)	(100.0)
		1,091,600	300,200	302,100	41,800	1,735,700
	公 立	(57.9)	(19.4)	(20.1)	(2.7)	(100.0)
		980,000	328,300	340,800	44,900	1,694,000
	私 立	(66.8)	(14.8)	(15.9)	(2.5)	(100.0)
		1,559,900	345,700	372,400	58,000	2,336,000
	男	(65.5)	(15.5)	(16.5)	(2.4)	(100.0)
		1,428,400	338,400	360,100	53,400	2,180,300
	女	(66.4)	(15.1)	(16.0)	(2.5)	(100.0)
		1,474,100	334,700	356,300	55,800	2,220,900
平 均	(65.9)	(15.3)	(16.3)	(2.5)	(100.0)	
	1,449,400	336,700	358,300	54,400	2,198,800	
短期大学昼間部		(63.3)	(17.4)	(16.3)	(3.0)	(100.0)
		1,211,800	332,700	312,200	56,600	1,913,300
大 学 院	修士課程	(49.0)	(26.8)	(14.1)	(10.1)	(100.0)
		1,031,700	565,000	296,500	212,900	2,106,100
	博士課程	(15.8)	(33.2)	(24.8)	(26.2)	(100.0)
		459,000	966,400	722,500	763,100	2,911,000
専門職学位課程	(41.4)	(31.0)	(3.8)	(23.9)	(100.0)	
		1,149,200	860,200	106,400	662,800	2,778,600

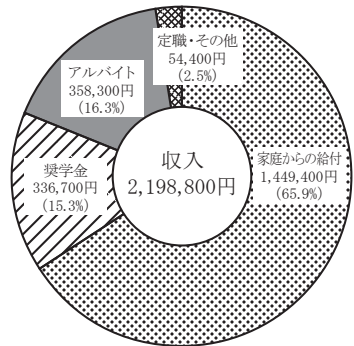
(注) () は、収入総額に占める割合である。

第4図 収入額内訳

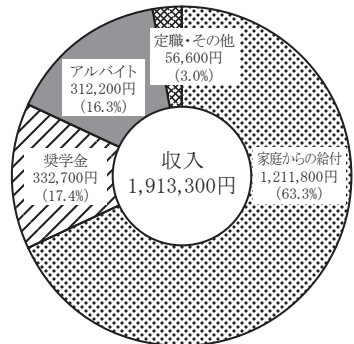
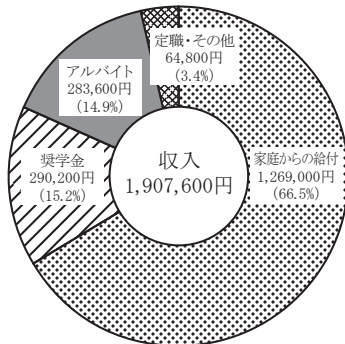
平成18年度
【大学昼間部】



平成20年度

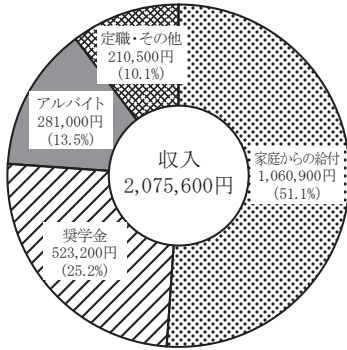


【短期大学昼間部】

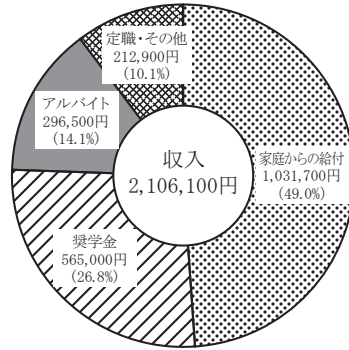


平成18年度

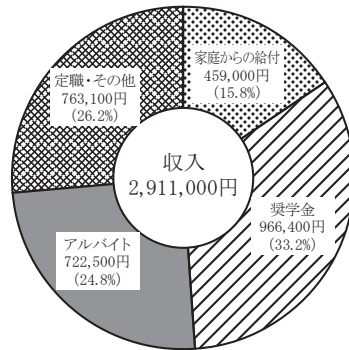
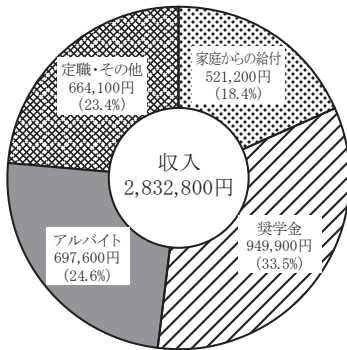
【大学院修士課程】



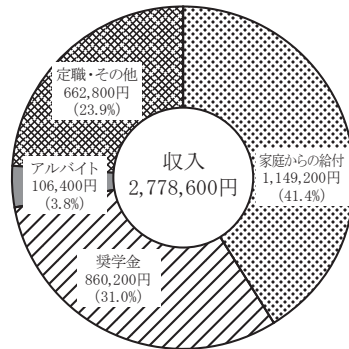
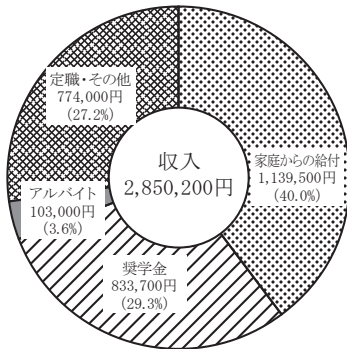
平成20年度



【大学院博士課程】



【大学院専門職学位課程】



3. 家庭からの給付額等

(1) 家庭からの給付（J表、K表）

大学・短期大学の昼間部における家庭からの給付は、その額では大学（約144万9千円）が短期大学（約121万2千円）より約24万円多く、学生生活費に占める割合も大学が78.0%，短期大学が76.7%で、大学が短期大学を1.3ポイント上回っている。

一方、大学院の学生生活費に占める家庭からの給付割合は、修士課程が59.2%，博士課程が22.4%，専門職学位課程が51.7%と大学・短期大学の昼間部に比べ低くなっている。

また、家庭の年間収入に占める家庭からの給付額の割合は、大学昼間部が17.6%，大学院修士課程が12.7%，博士課程が6.2%，専門職学位課程が13.1%で、ここ数年間ほぼ同割合となっている。

(2) 家庭の年間平均収入（K表）

学生の家庭の年間平均収入を設置者別にみると、私立が高い傾向にある。国立と私立の差をみると、大学昼間部が約42万円，大学院修士課程が約58万円，博士課程が約166万円，専門職学位課程が約13万円，それぞれ私立が高くなっている。

J表 家庭からの給付額の推移

（単位：円）

区分		年度	平成14年度	平成16年度	平成18年度	平成20年度
大学 昼間部	家庭からの給付額		1,556,700	1,449,200	1,496,300	1,449,400
	給付額 学生生活費×100		77.2%	74.7%	79.0%	78.0%
短期大学昼間部	家庭からの給付額		1,353,400	1,253,600	1,269,000	1,211,800
	給付額 学生生活費×100		75.8%	75.3%	77.4%	76.7%
大学院	修士課程	家庭からの給付額	1,098,300	1,046,300	1,060,900	1,031,700
		給付額 学生生活費×100	60.2%	59.0%	60.6%	59.2%
	博士課程	家庭からの給付額	539,800	526,800	521,200	459,000
		給付額 学生生活費×100	25.0%	25.0%	25.0%	22.4%
	専門職学位課程	家庭からの給付額	…	…	1,139,500	1,149,200
		給付額 学生生活費×100	…	…	49.4%	51.7%

K表 家庭の年間平均収入

(単位：千円)

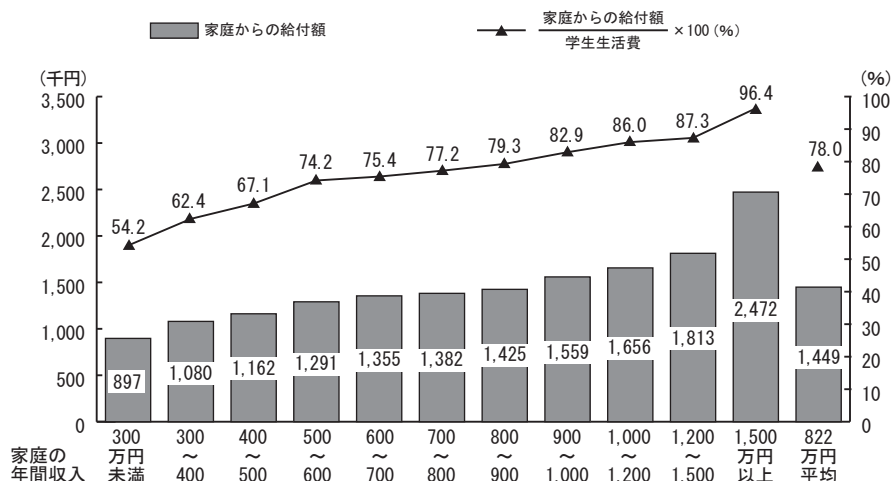
区 分	大 学		短期大学		大 学 院			
	昼間部	夜間部	昼間部	夜間部	修士課程	博士課程	専 門 職 学位課程	
20 年 度	国 立	7,920	6,010	…	…	7,920	7,090	8,700
	公 立	7,240	6,030	5,990	5,320	7,260	6,210	8,130
	私 立	8,340	7,210	6,660	5,860	8,500	8,750	8,830
	平 均	(△2.8) 8,220	(0.0) 6,910	(△6.5) 6,620	(6.5) 5,740	(1.5) 8,100	(△4.1) 7,460	(2.8) 8,770
参 考	平成18年	(0.5) 8,460	(1.3) 6,910	(△7.1) 7,080	(△13.2) 5,390	(△4.0) 7,980	(△3.2) 7,780	8,530
	平成16年	(△6.1) 8,420	(△3.1) 6,820	(0.8) 7,620	(△16.1) 6,210	(△6.9) 8,310	(△0.9) 8,040	…
	平成14年	(△5.9) 8,970	(△12.9) 7,040	(△8.8) 7,560	(△3.6) 7,400	(△2.6) 8,930	(△12.1) 8,110	…

(注) () は、前回調査に対する伸び率(%)である。

(3) 家庭の年間収入別学生生活費に占める家庭からの給付の割合 (第5図)

大学昼間部について家庭の収入額と家庭からの給付額の間をみると、おおむね家庭の収入が高くなるにつれて家庭からの給付額も高く、また、学生生活費に占める家庭からの給付額の割合も高くなっている。

第5図 家庭の年間収入別学生生活費に占める家庭からの給付の割合 (大学昼間部)



(4) 家庭の収入階層区分別学生数の割合（L表）

大学昼間部の家庭の年間収入額別学生数の割合を、総務省の家計調査（平成20年）から全国全世帯の45～54歳の世帯主（学生の家庭の世帯主年齢と想定）を抜き出し、五分位階層区分（集計世帯を収入額の低いものから高いものへ順に並べ、その世帯数を5等分したもので、収入額の低いグループから高い方へ順に第Ⅰ～第Ⅴと区分したもの）を推計し、これに今回調査を当てはめて各区分別学生数をみると、国・公立は第Ⅲ五分位に最も高い分布を示しているが、私立は第Ⅳ五分位に最も高い分布を示している。また、国・公立は第Ⅴ五分位、私立は第Ⅱ五分位に最も低い分布を示している。

L表 家庭の収入階層区分別学生数の割合【45～54歳の世帯主】（大学昼間部）

（単位：％）

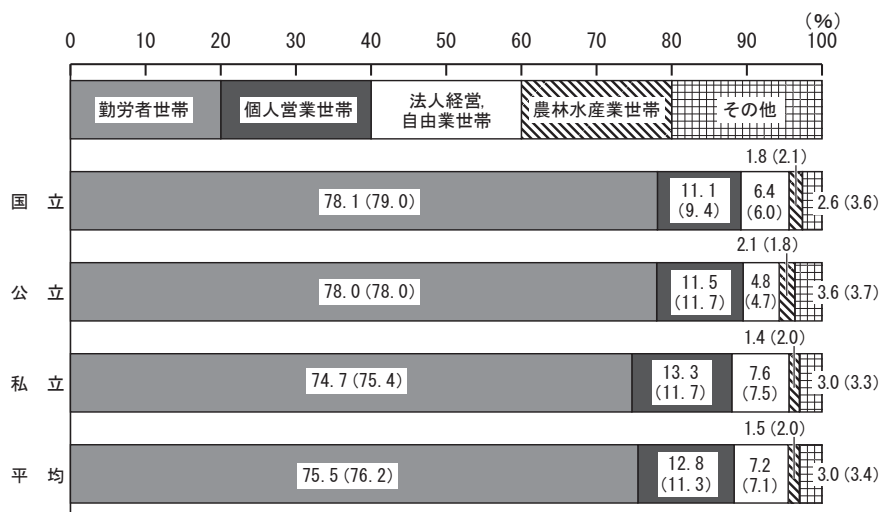
区 分	第Ⅰ五分位	第Ⅱ五分位	第Ⅲ五分位	第Ⅳ五分位	第Ⅴ五分位
	千円 (～4,881) 5,083千円未満	千円 (4,881～6,789) 5,083千円以上 6,871千円未満	千円 (6,789～8,495) 6,871千円以上 8,535千円未満	千円 (8,495～10,906) 8,535千円以上 10,924千円未満	千円 (10,906～) 10,924千円以上
国 立	(17.1) 26.3	(19.4) 13.4	(29.5) 29.6	(19.3) 17.5	(14.6) 13.1
公 立	(22.6) 29.1	(21.7) 15.5	(27.9) 29.3	(17.0) 15.2	(10.9) 11.0
私 立	(16.1) 24.6	(19.4) 13.2	(20.5) 20.5	(28.3) 27.4	(15.7) 14.3
平 均	(16.6) 25.1	(19.5) 13.3	(22.5) 22.5	(26.2) 25.1	(15.3) 14.0

（注）（ ）は、平成18年度調査の額及び割合である。

(5) 主たる家計支持者の世帯区分別学生数の割合（第6図）

大学昼間部の場合、国・公・私立とも勤労者世帯の学生数が多く、74.7～78.1%を占めている。

第6図 主たる家計支持者の世帯区分別学生数の割合（大学昼間部）



(注) () は、平成18年度調査の割合である。

4. アルバイトの従事状況

(1) アルバイトの従事状況（M表，N表，第7図）

調査時前の1年間にアルバイトに従事した経験を有する者の全学生に対する割合等の状況は、次のとおりである。

①大学昼間部

アルバイト従事者は全学生の77.6%となっており、平成18年度調査と比較して1.2ポイントの増となっている。これらの者の経済状況を示したのが第7図である。「家庭からの給付なし」の者が4.8%、「家庭からの給付のみでは修学に不自由、修学継続困難」な者が43.7%、家庭からの給付のみで修学は可能であるが、アルバイトに従事したとする者が51.4%となっている。

②大学院

アルバイトに従事した経験を有する者は、全学生のうち、修士課程が80.5%、博士課程が75.9%、専門職学位課程が27.9%で、これらのうち、「家庭からの給付なし」の者がそれぞれ11.1%、44.4%、21.1%、「家庭からの給付のみでは修学に不自由・修学継続困難」な者が50.6%、41.0%、47.3%となっており、修士課程で61.7%、博士課程で85.4%、専門職学位課程で68.4%の者が、修学上やむを得ずアルバイトに従事していることが伺える。

M表 アルバイトの従事状況

(単位：%)

区分		14年度	16年度	18年度	20年度		
大学 昼間部	アルバイト 従事者	家庭からの給付のみで修学可能	29.7	37.3	41.1	39.9	
		家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	47.1	39.6	35.4	37.6	
		計	76.8	76.8	76.4	77.6	
	アルバイト非従事者		23.2	23.2	23.6	22.4	
大 学 院	修士課程	アルバイト 従事者	家庭からの給付のみで修学可能	21.0	23.8	31.7	31.0
			家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	47.7	44.9	47.2	49.6
			計	68.7	68.8	78.9	80.5
		アルバイト非従事者		31.3	31.2	21.1	19.5
	博士課程	アルバイト 従事者	家庭からの給付のみで修学可能	4.9	8.1	12.2	11.2
			家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	58.4	53.9	65.4	64.8
			計	63.3	62.0	77.6	75.9
		アルバイト非従事者		36.7	38.0	22.4	24.1
	専門職学位課程	アルバイト 従事者	家庭からの給付のみで修学可能	…	…	8.8	8.8
			家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	…	…	19.8	19.1
			計	…	…	28.7	27.9
		アルバイト非従事者		…	…	71.3	72.1

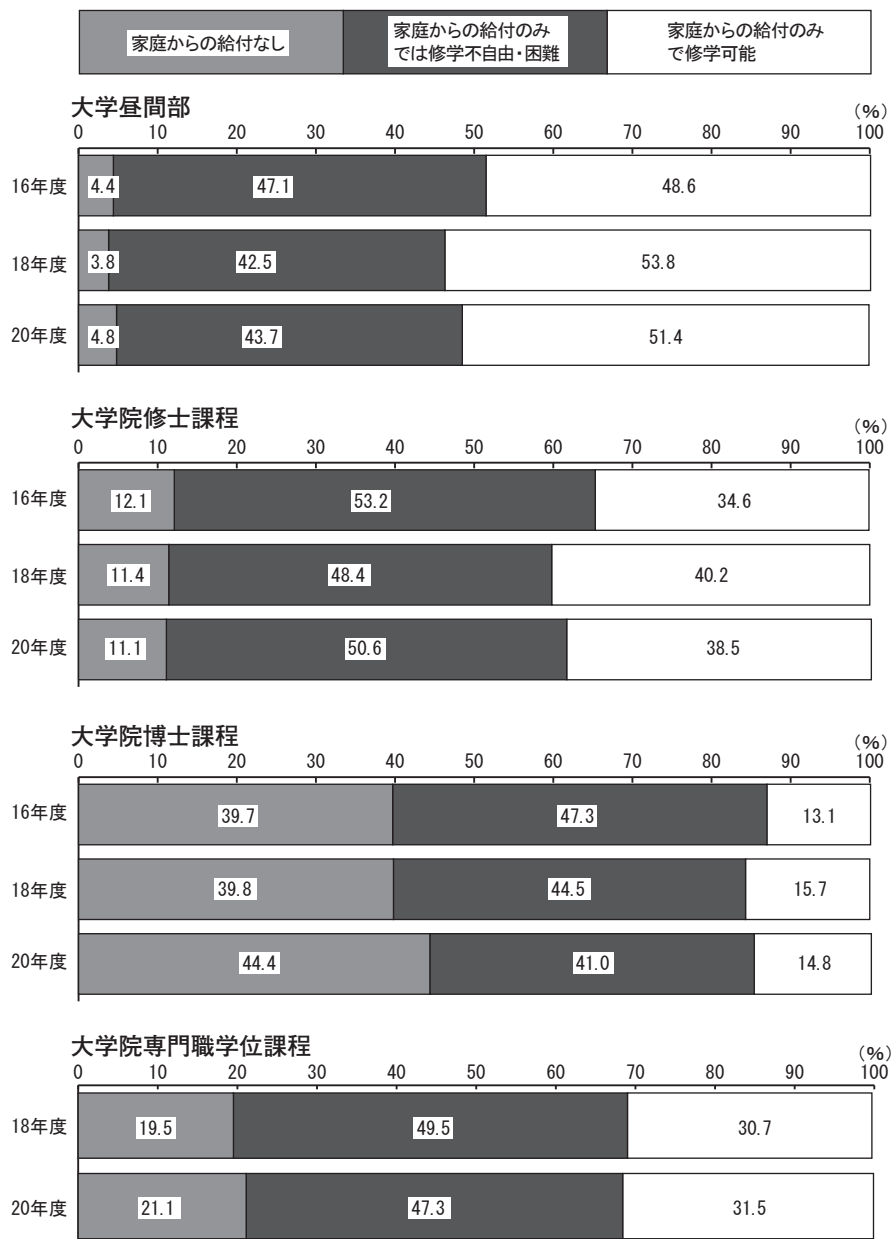
(注) 「家庭からの給付のみでは修学不自由・困難」とは、家庭からの給付がない者を含む。

N表 アルバイト従事者の経済状況

区分		全学生のうちアルバイト従事者	家庭からの給付なし、給付のみでは修学に不自由・困難	家庭からの給付のみで修学可能	
大学 昼間部	国立	77.4(76.4) %	49.9(46.1) %	50.1 (53.9) %	
	公立	81.7(78.4)	52.5(50.5)	47.5 (49.4)	
	私立	77.3(76.3)	48.1(46.0)	51.9 (54.0)	
	平均	77.6(76.4)	48.5(46.3)	51.4 (53.8)	
大 学 院	修士課程	国立	80.3(77.8)	61.6(60.3)	38.4 (39.7)
		公立	74.2(70.5)	66.3(64.1)	33.6 (35.9)
		私立	81.9(81.8)	60.4(58.6)	39.4 (41.3)
		平均	80.5(78.9)	61.6(59.8)	38.5 (40.2)
	博士課程	国立	77.0(78.1)	86.0(84.4)	13.9 (15.6)
		公立	64.4(68.3)	89.9(89.6)	10.2 (10.4)
		私立	75.5(78.3)	82.1(83.1)	17.9 (17.0)
		平均	75.9(77.6)	85.4(84.3)	14.8 (15.7)
	専門職学位課程	国立	26.6(27.8)	61.7(59.4)	38.3 (41.0)
		公立	29.6(33.6)	75.0(54.5)	24.7 (45.5)
		私立	28.5(28.9)	70.9(74.7)	29.1 (25.6)
		平均	27.9(28.7)	68.5(69.0)	31.5 (30.7)

(注) 1. 「家庭からの給付なし、給付のみでは修学に不自由・困難」、「家庭からの給付のみで修学可能」欄の数字は、66頁 (H-1表)、100頁 (H-1表)、101頁 (H-2表)、102頁 (H-3表) を基に全学生のうちアルバイト従事者を、100とした割合である。
2. () は、平成18年度調査における割合である。

第7図 家庭からの給付程度別アルバイトの従事学生の割合の推移



(2) アルバイト従事時期別学生数の割合（O表，第8図）

①大学昼間部

「長期休暇中も授業期間中も従事する者」及び「授業期間中に経常的に従事する者」の合計は80.7%となっている。

②大学院

「長期休暇中も授業期間中も従事する者」及び「授業期間中に経常的に従事する者」の合計は、修士課程が75.3%，博士課程は84.0%，専門職学位課程は55.6%となっている。

(3) アルバイト従事職種別学生数の割合（P表）

アルバイトに従事した職種別の学生数の割合は、P表にみられるように、学校種別によって大きく異なっている。

①大学昼間部等

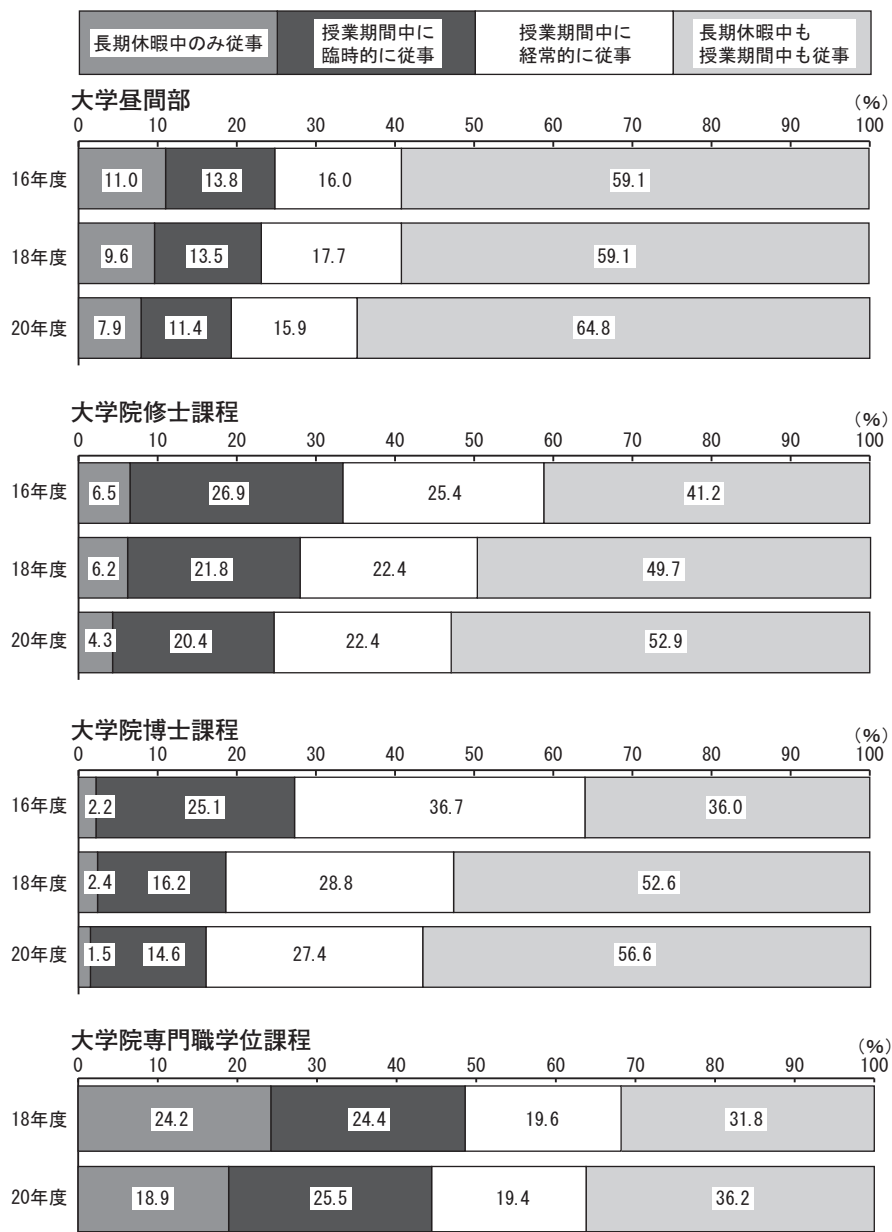
大学昼間部では、軽労働に従事した者の割合が71.4%を占め、次いで家庭教師に従事した者12.5%となっている。

なお、短期大学昼間部では、軽労働に従事した者の割合が83.7%を占めているのに対し、家庭教師に従事した者は2.5%と、大学昼間部に比べ相当低くなっている。

②大学院

修士課程では、特殊技能・その他に従事した者の割合が44.1%，次いで軽労働に従事した者30.4%，博士課程では、特殊技能・その他に従事した者の割合が76.8%，次いで家庭教師に従事した者11.2%，専門職学位課程では、軽労働に従事した者の割合が31.8%，次いで家庭教師に従事した者26.1%となっているように、修士課程，博士課程では特殊技能に従事する者の割合が高くなっている。平成18年度調査と比べても割合は増加しているが、これまでアルバイト従事職種に例示していなかったTA・RAを、今回調査から「特殊技能・その他」として例示したことも影響していると思われる。

第8図 アルバイト従事時期別学生数の割合の推移



〇表 アルバイト従事時期別学生数の割合

区 分		長期休暇中のみ 従事	授業期間中に 臨時的に従事	授業期間中に 経常的に従事	長期休暇中も 授業期間中も従事		
大学 昼間部	国立	7.0(7.7)%	12.8(14.8)%	17.1(18.3)%	63.0(59.1)%	80.1 (77.4)%	
	公立	6.4(7.9)	11.1(12.6)	15.7(17.5)	66.8(62.0)	82.5 (79.5)	
	私立	8.2(10.2)	11.1(13.3)	15.6(17.6)	65.1(58.9)	80.7 (76.5)	
	平均	7.9(9.6)	11.4(13.5)	15.9(17.7)	64.8(59.1)	80.7 (76.8)	
大学 院	修士課程	国立	3.6(5.2)	22.4(23.0)	19.6(21.8)	54.5(49.9)	74.1 (71.7)
		公立	3.8(6.8)	19.6(23.1)	18.7(20.8)	57.9(49.3)	76.6 (70.1)
		私立	5.4(7.4)	17.3(19.7)	27.4(23.5)	49.9(49.4)	77.3 (72.9)
	博士課程	国立	4.3(6.2)	20.4(21.8)	22.4(22.4)	52.9(49.7)	75.3 (72.1)
		公立	1.2(2.0)	14.8(16.6)	25.6(28.1)	58.3(53.3)	83.9 (81.4)
		私立	1.8(3.1)	16.6(22.4)	26.8(28.3)	54.7(46.2)	81.5 (74.5)
	専門職学位課程	国立	2.1(3.5)	13.4(14.0)	32.6(30.7)	51.9(51.7)	84.5 (82.4)
		公立	1.5(2.4)	14.6(16.2)	27.4(28.8)	56.6(52.6)	84.0 (81.4)
		平均	16.5(22.4)	29.2(28.4)	17.7(16.3)	36.5(32.9)	54.2 (49.2)
	平均	国立	24.5(37.0)	20.2(15.7)	22.7(26.9)	32.5(20.4)	55.2 (47.3)
		公立	19.7(24.5)	24.0(22.9)	20.0(20.8)	36.2(31.8)	56.2 (52.6)
		平均	18.9(24.2)	25.5(24.4)	19.4(19.6)	36.2(31.8)	55.6 (51.4)

(注) () は、平成18年度調査における割合である。

P表 職種別アルバイト学生数の割合

(単位：%)

区 分		家庭教師	事 務	軽労働	重労働 危険作業	特殊技能 その他	計
大学昼間部		(14.6)	(6.6)	(65.9)	(3.1)	(9.8)	100.0
		12.5	5.4	71.4	2.1	8.6	
男		(14.3)	(6.1)	(64.4)	(5.1)	(10.1)	100.0
		12.6	4.5	71.2	3.5	8.2	
女		(14.8)	(7.2)	(67.6)	(0.8)	(9.5)	100.0
		12.5	6.3	71.6	0.5	9.1	
短期大学昼間部		(2.7)	(3.0)	(79.2)	(1.3)	(13.7)	100.0
		2.5	2.9	83.7	1.4	9.5	
大学 院	修 士 課 程	(24.5)	(23.9)	(29.2)	(1.9)	(20.4)	100.0
		17.8	6.7	30.4	1.1	44.1	
	博 士 課 程	(16.7)	(33.4)	(6.3)	(0.7)	(42.8)	100.0
		11.2	5.9	5.4	0.6	76.8	
	専 門 職 学 位 課 程	(26.6)	(27.8)	(25.7)	(2.1)	(17.8)	100.0
		26.1	21.3	31.8	1.0	19.8	

(注) 1. 軽労働とは、包装、箱詰、選別、整理、封入、発送等である。
2. () は、平成18年度調査の割合である。

5. 奨学金の受給希望及び受給状況

(1) 学校種別の奨学金受給希望・受給状況（第9図）

奨学金の受給希望の状況及び受給者（日本学生支援機構，地方公共団体，民間団体，学校からの奨学金受給者をいう。）の割合をみると，第9図のとおりとなっている。

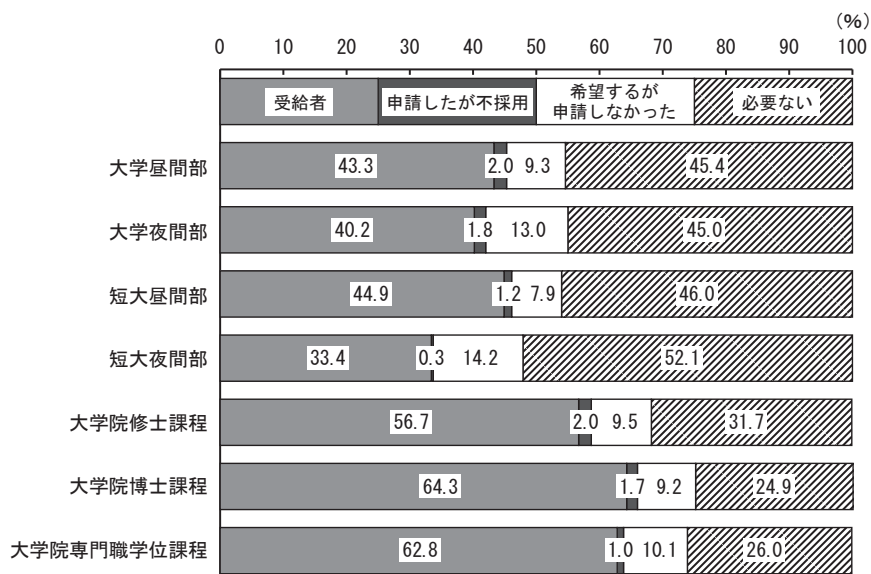
①大学昼間部

奨学金受給者は43.3%，申請したが不採用となった者は2.0%であり，両者を合わせた45.3%の者が奨学金受給希望者といえる。さらに「奨学金の受給を希望するが申請しなかった」いわゆる潜在的な奨学金受給希望者が9.3%あり，これらを含めると，全学生数の約半数以上の者が奨学金の受給を希望していることとなる。

②大学院

奨学金受給者は，修士課程が56.7%，博士課程が64.3%，専門職学位課程が62.8%となっており，大学昼間部の43.3%に比べ高くなっている。

第9図 学校種別の奨学金受給希望・受給状況



(2) 設置者別の奨学金受給希望・受給状況（第10図）

全学生に対する奨学金受給者の割合を設置者別にみると、第10図のとおりである。

①大学昼間部

奨学金受給者の割合は、公立が最も高く49.7%で、以下国立43.9%、私立42.8%の順となっている。また、奨学金の申請者に対する受給者の割合は、国立95.4%、公立96.9%、私立95.5%となっている。

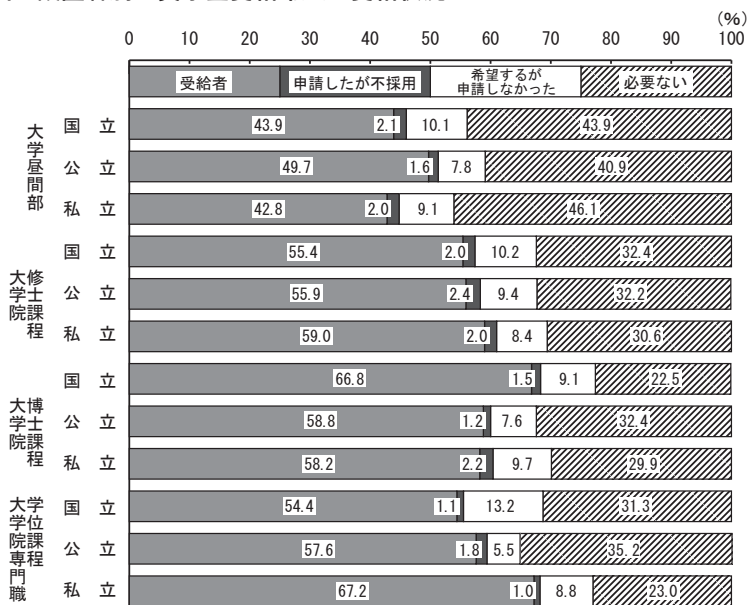
②大学院

修士課程の奨学金受給者の割合は、私立が最も高く59.0%で、以下公立55.9%、国立55.4%の順となっている。なお、奨学金の申請者に対する受給者の割合は、国立が96.5%、公立が95.9%、私立が96.7%となっている。

博士課程の奨学金受給者の割合は、国立が最も高く66.8%で、以下公立58.8%、私立58.2%の順となっているが、奨学金の申請者に対する受給者の割合は国立が97.8%、公立98.0%、私立96.4%となっている。

専門職学位課程の奨学金受給者の割合は、私立が最も高く67.2%で、以下公立57.6%、国立54.4%の順となっている。なお、奨学金の申請者に対する受給者の割合は、国立が98.0%、公立が97.0%、私立が98.5%となっている。

第10図 設置者別の奨学金受給希望・受給状況

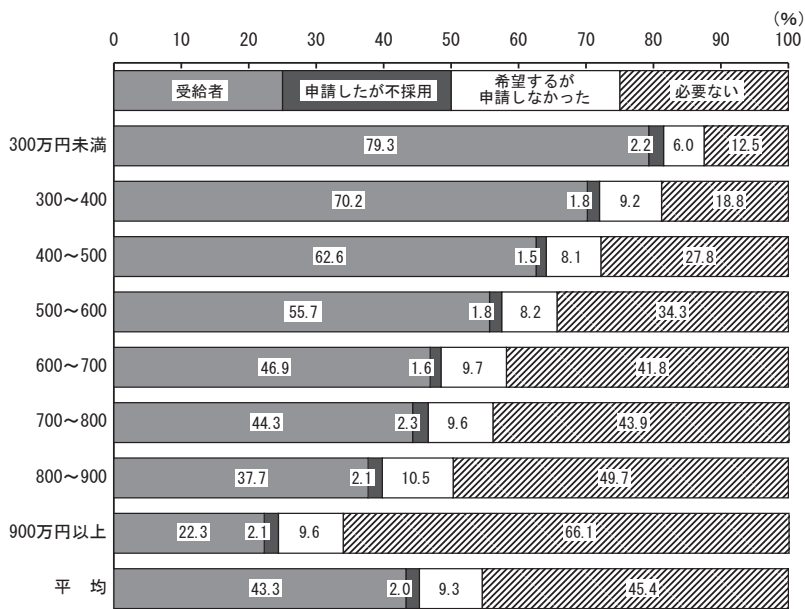


(3) 家庭の所得階層別の奨学金受給希望・受給状況（第11図）

大学昼間部の家庭の所得階層別の奨学金受給希望及び受給状況を見ると、第11図のとおり、学生の家庭の所得が高くなるにつれて奨学金受給者の割合は小さくなる傾向を示している。

なお、「奨学金の受給を希望するが申請をしなかった」いわゆる潜在的な奨学金希望者は、家庭の所得の高低にかかわらず、全所得階層にわたりほぼ一定の割合を占めている。

第11図 家庭の所得階層別の奨学金受給希望・受給状況（大学昼間部）



(4) 奨学金の種類別・設置者別受給状況（第12図）

奨学金の種類別受給状況を設置者別にみると第12図のとおりである。

①大学昼間部

日本学生支援機構の奨学金受給者（日本学生支援機構以外の奨学金と両方を受給している者を含む。以下同じ。）の割合は、公立が最も高く93.7%，次いで国立93.3%，私立89.8%の順となっている。

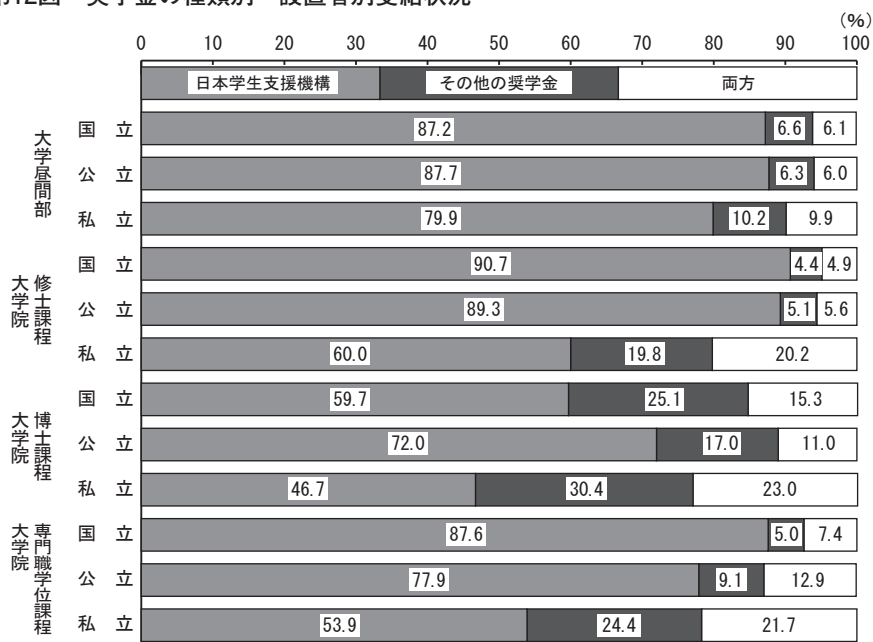
一方、日本学生支援機構以外の奨学金受給者（日本学生支援機構の奨学金と両方を受給している者を含む。以下同じ。）の割合は、逆に私立が最も高く20.1%，次いで国立12.7%，公立12.3%の順となっている。

②大学院

日本学生支援機構の奨学金受給者の割合は、修士課程と専門職学位課程では国立が最も高く、それぞれ95.6%、95.0%、博士課程では公立が最も高く83.0%となっている。

一方、日本学生支援機構以外の奨学金を受給している者の割合は、修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれも私立が最も高く、それぞれ40.0%、53.4%、46.1%となっている。

第12図 奨学金の種類別・設置者別受給状況



6. 居住形態別・地域別通学時間 (Q表)

①大学昼間部

居住形態別にみると、自宅通学者の片道通学時間は約70分となっており、学寮通学者の約15分や下宿等通学者の約17分を大きく上回っている。

地域別にみると、東京圏は約57分、京阪神は約52分で、その他の地域の約34分に比べ通学時間が長くなっている。

Q表 居住形態別・地域別通学時間（片道通学時間）

（単位：分）

区分		自宅	学寮	下宿、アパート、その他	平均	
大学学部	昼間部					
	東京圏	76.6	20.4	24.5	56.7	
	京阪神	75.1	19.5	17.7	52.2	
	その他	59.8	10.4	12.8	34.2	
	全 国	69.6	15.2	16.9	45.3	
大学院	修士課程	東京圏	75.1	28.8	25.6	51.8
		京阪神	77.1	17.8	17.2	43.2
		その他	56.2	8.8	13.6	28.0
		全 国	67.5	15.0	17.2	38.0
	博士課程	東京圏	70.7	34.3	33.6	52.4
		京阪神	73.9	20.9	22.7	44.8
		その他	67.8	10.0	23.2	40.1
		全 国	70.1	17.2	25.9	44.9
	専門職学位課程	東京圏	65.1	46.2	36.2	54.4
		京阪神	67.0	14.5	19.7	46.0
		その他	56.8	13.3	14.9	33.2
		全 国	63.8	21.0	23.7	45.7

（注）「東京圏」とは、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県をいう。
 「京阪神」とは、京都府・大阪府・兵庫県をいう。

②大学院

居住形態別にみると、修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれも自宅通学者の片道通学時間は、学寮通学者や下宿等通学者の通学時間を大きく上回り、それぞれ約68分、70分、64分となっている。

また、地域別にみると、東京圏、京阪神はその他の地域に比べ通学時間が長くなっている。

7. 週間平均生活時間（R表）

大学昼間部について週間平均生活時間をみると、設問項目のうち、一週間の生活時間の中で最も多く費やすのは「大学の授業」となっている。

設置者別にみると、国・公・私立のいずれも「大学の授業」が最も多く、その時間は約18～20時間となっており、国・公・私立別の大きな差はみられない。

R表 設置者別週間平均生活時間

（単位：時間）

区分		大学の授業	授業関連の学習 （予習・復習）	大学以外の学習	文化・体育等の サークル活動	アルバイト等の 就労活動
大 学	昼間部					
	国立	19.93	8.24	3.38	5.17	8.51
	公立	20.12	7.56	3.17	3.72	10.04
	私立	18.37	5.69	2.70	5.57	10.40
	平均	18.73	6.23	2.84	5.42	10.04

（注）平成20年11月における不特定な一週間を調査。

②表 居住形態別・設置者別の学生生活費

区分	自			宅			下宿、アパート、その他			全居住形態平均		
	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計
大学 短期 学部	国立	688,800円 (△1.6%)	367,600円 (6.5%)	1,056,400円 (1.1%)	628,400円 (△1.5%)	1,087,800円 (△3.8%)	1,716,200円 (△3.0%)	644,800円 (△1.4%)	821,600円 (△3.0%)	1,466,400円 (△2.3%)		
	公立	720,700 (0.7%)	360,200 (6.7%)	1,080,900 (1.7%)	638,100 (0.4%)	1,044,800 (6.8%)	1,682,900 (2.9%)	672,300 (1.0%)	745,200 (2.0%)	1,417,500 (1.5%)		
	私立	1,337,600 (1.6%)	391,300 (△2.5%)	1,728,900 (0.6%)	1,351,600 (0.4%)	1,031,700 (△8.0%)	2,383,300 (△3.4%)	1,338,000 (1.1%)	638,600 (△8.0%)	1,976,600 (△2.0%)		
平均	1,244,300 (1.5%)	387,600 (△1.4%)	1,631,900 (0.8%)	1,115,700 (△0.2%)	1,047,400 (△6.2%)	2,163,100 (△3.2%)	1,183,000 (1.0%)	676,300 (△6.6%)	1,859,300 (△1.9%)			
修 士 課 程	国立	701,000 (△2.5%)	469,100 (2.2%)	1,170,100 (△0.6%)	621,800 (0.9%)	1,259,600 (0.3%)	1,881,400 (0.5%)	643,400 (△0.4%)	1,010,800 (1.5%)	1,654,200 (0.7%)		
	公立	741,600 (△0.8%)	475,600 (9.4%)	1,217,200 (2.9%)	663,300 (0.4%)	1,242,100 (1.7%)	1,910,400 (1.3%)	696,700 (△0.3%)	889,700 (5.5%)	1,586,400 (2.8%)		
	私立	1,114,000 (0.2%)	467,900 (△1.6%)	1,581,900 (△0.3%)	1,069,800 (0.0%)	1,240,500 (△6.0%)	2,310,300 (△3.3%)	1,091,800 (0.0%)	813,900 (△5.3%)	1,905,700 (△2.3%)		
平均	912,600 (△0.2%)	469,000 (0.8%)	1,381,600 (0.1%)	748,800 (0.0%)	1,253,500 (△1.5%)	2,002,300 (△0.9%)	809,600 (△0.3%)	932,500 (△0.6%)	1,742,100 (△0.4%)			
大 学 院	国立	806,800 (△1.1%)	724,700 (△6.0%)	1,531,500 (△3.5%)	677,400 (△1.2%)	1,548,000 (0.9%)	2,225,400 (0.3%)	712,400 (△1.3%)	1,290,000 (△0.4%)	2,002,400 (△0.7%)		
	公立	850,100 (△2.1%)	744,000 (△3.3%)	1,594,100 (△2.6%)	732,900 (△1.5%)	1,372,800 (5.7%)	2,305,700 (6.3%)	777,200 (△2.2%)	1,210,600 (4.5%)	1,987,800 (1.8%)		
	私立	1,046,100 (△5.9%)	717,000 (△6.1%)	1,763,100 (△6.0%)	897,700 (△6.0%)	1,687,600 (0.5%)	2,625,300 (△1.9%)	988,900 (△5.8%)	1,220,000 (△2.4%)	2,208,900 (△4.0%)		
平均	892,600 (△2.7%)	723,300 (△5.9%)	1,615,900 (△4.1%)	732,600 (△2.3%)	1,577,600 (1.1%)	2,310,200 (△0.0%)	784,500 (△2.4%)	1,268,600 (△0.7%)	2,053,100 (△1.4%)			
専 門 職 業 学 位 課 程	国立	958,500 (△0.9%)	520,400 (△12.1%)	1,478,900 (△5.1%)	851,200 (△3.9%)	1,340,100 (△4.5%)	2,191,300 (△4.2%)	882,300 (△2.9%)	1,028,200 (△5.9%)	1,910,500 (△4.5%)		
	公立	870,400 (3.2%)	576,300 (13.6%)	1,446,700 (7.1%)	787,200 (△6.0%)	1,185,500 (△17.6%)	1,972,700 (△13.4%)	837,200 (△0.5%)	820,100 (△3.7%)	1,657,300 (△2.1%)		
	私立	1,531,300 (△1.9%)	565,700 (4.2%)	2,097,000 (△0.3%)	1,446,700 (△3.3%)	1,390,500 (△7.3%)	2,837,200 (△5.3%)	1,490,500 (△2.6%)	909,400 (△2.9%)	2,399,900 (△2.7%)		
平均	1,380,000 (△2.2%)	555,900 (0.5%)	1,935,900 (△1.5%)	1,184,600 (△4.1%)	1,364,600 (△6.5%)	2,549,200 (△5.4%)	1,277,800 (△3.4%)	944,700 (△4.0%)	2,222,500 (△3.6%)			

(注) () は、平成18年度調査からの伸び率である。